

# N

# F

# C

## NFC CALENDAR

大ホール(2階)

映画監督 大島渚

Nagisa Oshima Retrospective

2010年1月5日(火) - 1月29日(金)

### 1月の休館日:

月曜日、2009年12月28日(月) - 2010年1月4日(月)

### 大ホール

開映後の入場はできません。

定員=310名(各回入替制)

料金=一般500円/高校・大学生・シニア300円/小・中学生100円/

障害者(付添者は原則1名まで)は無料

発券=2階受付

- 観覧券は当日・当該回のみ有効です。
- 発券・開場は開映の30分前から行い、定員に達し次第締切ります。
- 学生、シニア(65歳以上)、障害者の方は、証明できるものをご提示ください。
- 発券は各回1名につき1枚のみです。

# 映画監督 大島 渚



東京国立近代美術館フィルムセンター

**National Film Center**  
The National Museum of Modern Art, Tokyo



2010  
**1**

NFCカレンダー  
2010年1月号



# 大ホール 上映作品

映画監督 大島渚  
Nagisa Oshima Retrospective

大島渚監督の記念すべき長篇映画デビュー作『愛と希望の街』が公開されたのは、いまからちょうど50年前の1959年11月のことでした。この27歳の監督作品により、それまで松竹が得意としてきたいわゆる「大船調」の枠組みを打ち破ろうとした大島は、続く『青春残酷物語』『太陽の墓場』（いずれも1960年）で「松竹ヌーヴェル・ヴァーグ」の旗手としてマスコミの話題をさらひ、また1960年に『日本の夜と霧』の公開打ち切りをめぐり松竹を退社した後は「創造社」を中心とする独立プロへ活動の場を移して、その都度戦後日本の社会に鋭い問題を提起する一方、大胆な映像と音の設計で映画表現の可能性を広げてきました。

とりわけ『絞死刑』（1968年）のカンヌ国際映画祭出品以降は国際的な舞台でもセンセーションを巻き起こし、1976年の『愛のコリーダ』、1983年の『戦場のメロクリスマス』、1999年の『御法度』まで、新作の公開を世界中が固唾を呑んで見守ってきました。

本企画では、長篇デビュー以前に大島が手がけた新人スター紹介用の短篇作品『明日の太陽』、脚本を担当した『月見草』や『どんと行こうぜ』（いずれも1959年）など珍しい初期作品を含む計28作品（25プログラム）の上映を通して、日本が世界に誇るオオシマの足跡を回顧します。

- 監修・演出 ㊟=原作・原案 ㊟=脚本・脚色
- ㊟=撮影 ㊟=美術 ㊟=編集 ㊟=音楽
- ㊟=出演 ㊟=解説・ナレーション
- スタッフ、キャストの人名は原則として公開当時の表記を記載しています。
- 特集には不完全なプリントが含まれていることがあります。
- 記載した上映分数は、当日のものと多少異なることがあります。



日本春歌考

**1** 1/5(火)1:00pm 1/16(土)11:00am

**月見草** (70分・35mm・白黒)

助監督時代の大島がシナリオ同人誌『七人』に発表した「美しき水車小屋の少女」を映画化した岩城其美夫の監督第1作。大学受験のため東京へ旅立った修一は恋人の恭子に次第に冷ややかな態度をとるようになる。二人の仲を気遣い奔走する修一の弟・健次はやがて恭子と惹かれ合うようになるが…。

'59(松竹大船) ㊟岩城其美夫 ㊟大島渚 ㊟井上晴二 ㊟逆井清一郎 ㊟浜村義康 ㊟池田正義 ㊟山本豊三、十朱幸代、清川新吾、鳳八千代、菅佐原英一、桜むつ子、岡村文子

**2** 1/5(火)4:00pm 1/17(日)11:00am

**どんと行こうぜ** (89分・35mm・白黒)

大学の放送研究会で活動する女子学生が、ラジオ放送のため「学生のセックス、スピード、スリル」をテーマにした録音ルポを作ることになる。津川雅彦と牧紀子が演じる主役の二人を軸に、若者たちの恋の行方を描いた青春明朗篇。大島が助監督を務めた野村芳太郎の監督作品で、大島と野村が共同でオリジナル脚本を執筆している。

'59(松竹大船) ㊟野村芳太郎 ㊟大島渚 ㊟川又昂 ㊟宇野耕司 ㊟浦岡敬一 ㊟芥川也寸志 ㊟津川雅彦、牧紀子、川津祐介、小坂一也、渡辺文雄、九條映子、富永ユキ、高橋貞二、中圭子

**3** 1/5(火)7:00pm 1/15(金)4:00pm 1/23(土)2:00pm

**明日の太陽** (6分・35mm・カラー)

松竹の新人スターをミュージカル仕立てで紹介した助監督時代の短篇作品。撮影には初期の代表作でコンビを組む川又昂を起用。「それまでの松竹映画と違うような撮り方(…)ふつうのカメラマンだったらいやがるようなクローズアップだとかカメラの動きだとか。全体的に動きのあるものに仕上がったと思います」(大島渚)。

'59(松竹大船) ㊟大島渚 ㊟川又昂 ㊟宇野耕司 ㊟浦岡敬一 ㊟十朱幸代、山本豊三、桑野みゆき、杉浦直樹、九條映子、川津祐介、津川雅彦

**愛と希望の街** (62分・35mm・白黒)

助監督室の『シナリオ集』に発表したオリジナル脚本を大島自らが映画化した長篇デビュー作。路上で鳩を売る貧しい少年に同情を寄せる金持ちの令嬢。しかしそれは鳩の帰巢本能を利用した詐欺商売だった。階級の断絶を象徴する有名なラスト・シーンとともに、旧来の「松竹大船調」の枠組みを踏み越えた記念碑的作品。

'59(松竹大船) ㊟大島渚 ㊟楠田浩之 ㊟宇野耕司 ㊟杉原よ志 ㊟真鍋理一郎 ㊟藤川弘志、富永ユキ、望月優子、伊藤道子、渡辺文雄、千之赫子、須賀不二夫、坂下登

**4** 1/6(水)1:00pm 1/17(日)2:00pm 1/26(火)7:00pm

**青春残酷物語** (96分・35mm・カラー)

中年男から金を巻き上げる犯罪を重ね破滅に向う若い男女の欲望と行動を、旧世代の人間たちの生き様と対比させながらストレートに描写。本作の大ヒットを機に「松竹ヌーヴェル・ヴァーグ」の流行語も生まれた。大島は日本映画監督協会の第1回新人賞を受賞。

'60(松竹大船) ㊟大島渚 ㊟川又昂 ㊟宇野耕司 ㊟浦岡敬一 ㊟真鍋理一郎 ㊟桑野みゆき、川津祐介、久我美子、渡辺文雄、小林トシ子、二本柳賢、山茶花究、森川信、浜村純、佐野浅夫、佐藤慶

**5** 1/6(水)4:00pm 1/14(木)7:00pm 1/19(火)1:00pm

**太陽の墓場** (88分・35mm・カラー)

『青春残酷物語』の成功を受けて続篇の製作を要請された大島が石堂淑朗と共同で脚本を執筆。大阪のドヤ街を舞台に、血売屋や愚連隊の抗争を通して社会の底辺にうずまく欲望と、それらが破滅へ向かう様を描く。強烈な色彩による撮影、そしてヒロインを演じた型破りな新人女優・炎加世子の登場も話題を呼んだ。

'60(松竹) ㊟大島渚 ㊟石堂淑朗 ㊟川又昂 ㊟宇野耕司 ㊟浦岡敬一 ㊟真鍋理一郎 ㊟津川雅彦、炎加世子、佐々木功、川津祐介、渡辺文雄、小沢栄太郎、北林谷栄、藤原釜足、左ト全、佐藤慶、戸浦六宏、浜村純、伴淳三郎、羅生門

**6** 1/6(水)7:00pm 1/16(土)2:00pm 1/21(木)1:00pm

**日本の夜と霧** (107分・35mm・カラー)

安保闘争がきっかけで結ばれた新聞記者と女子学生の結婚披露宴を舞台に、学生運動家OBたちの激しい政治論議が、大胆な長廻しの撮影とともに繰り広げられる。封切りからわずか4日で上映が打ち切られ、大島が松竹を退職するきっかけとなった。大島自らが「芸術的な集大成」と呼ぶ1本。

'60(松竹大船) ㊟大島渚 ㊟石堂淑朗 ㊟川又昂 ㊟宇野耕司 ㊟浦岡敬一 ㊟真鍋理一郎 ㊟桑野みゆき、津川雅彦、渡辺文雄、小山明子、芥川比呂志、佐藤慶、戸浦六宏、吉沢京夫

**7** 1/7(木)1:00pm 1/15(金)7:00pm 1/26(火)4:00pm

**飼育** (105分・35mm・白黒)

大島にとって初めてとなる小説の映画化で、大江健三郎の芥川賞小説を田村孟が脚色。太平洋戦争末期、撃墜された一人の黒人兵が山間の閉鎖的な村に囚われる。寓話的な状況を通して、日本人の社会構造と戦争責任を問う。主役の黒人兵には前年ジョン・カサヴェテスの『アメリカの影』に出演したヒュー・ハードが扮している。

'61(パレスフィルムプロ) ㊟大島渚 ㊟大江健三郎 ㊟田村孟 ㊟本坂力 ㊟松本俊夫、石堂淑朗、東松照明 ㊟倉川芳次 ㊟平田逸郎 ㊟宮森みゆり ㊟真鍋理一郎 ㊟三国連太郎、小山明子、三原葉子、中村雅子、岸輝子、沢村貞子、山茶花究、浜村純、戸浦六宏、ヒュー・ハード

**8** 1/7(木)4:00pm 1/19(火)7:00pm 1/29(金)1:00pm

**天草四郎時貞** (101分・35mm・白黒)

江戸時代初期に民衆蜂起を率いた少年・天草四郎に材を採った大島唯一の東映作品。娯楽の王道をゆく東映時代劇に“60年安保”から連なる政治運動の戦術論を持ち込み、大川橋蔵演じる天草四郎と大友柳太朗扮するその理解者・岡新兵衛が長い議論を戦わせるのが見もの。

'62(東映京都) ㊟大島渚 ㊟石堂淑朗 ㊟川崎新太郎 ㊟今保太郎 ㊟宮本信太郎 ㊟真鍋理一郎 ㊟大川橋蔵、丘さとし、大友柳太朗、三国連太郎、立川さゆり、河原崎長一郎、千秋実、加藤嘉、花沢徳衛、佐々木孝丸、平幹二郎、佐藤慶、戸浦六宏

**9** 1/24(日)5:00pm 1/27(水)4:00pm

**小さな冒険旅行** (60分・35mm・カラー)

家の外へ迷い出た子どもが東京中の名所を巡り無事家にたどり着くまでを描く。同年設立された日生劇場による石原慎太郎原案のPR映画で、大島が好んで取り上げた少年の題材に連なる1本としても興味深い。ヴェネチア国際映画祭児童映画部門銀獅子賞を受賞。

'63(日生劇場映画部) ㊟大島渚 ㊟石原慎太郎 ㊟石堂淑朗 ㊟倉川芳次 ㊟今保太郎 ㊟沼崎梅子 ㊟真鍋理一郎 ㊟中川春樹、佐藤慶、木村俊恵、浜村純、米倉喬年、加藤嘉、左ト全、小松方正、日下武史、戸浦六宏、矢野宣、小山明子、渡辺文雄

**ユンボギの日記** (25分・16mm・白黒)

テレビ・ドキュメンタリー「青春の碑」(1964年)の取材で韓国を訪れた大島が現地で撮影した写真に、当時ベストセラーとなった韓国少年の手記「ユンボギの日記」の朗読を加えるという実験的な手法を試みた短篇作品。韓国や在日朝鮮人への関心は以後の作品でもさらに大きな位置を占めることになる。

'65(創造社) ㊟大島渚 ㊟イー・ユンボギ ㊟川又昂 ㊟浦岡敬一 ㊟内藤孝敏 ㊟小松方正

**10** 1/8(金)1:00pm 1/21(木)4:00pm 1/27(水)7:00pm

**悦楽** (91分・35mm・カラー)

独立プロダクション、創造社の製作による第1回作品。恋慕を寄せる少女の結婚に絶望した青年が、他人から預かった巨額の公金を使って女遊びの悦楽に溺れていく。山田風太郎の小説「棺の中の悦楽」の映画化で、大島が「性」を描く話題作となったが、映倫の審査で大幅な削除を余儀なくされた。

'65(創造社) ㊟大島渚 ㊟山田風太郎 ㊟高田昭 ㊟今保太郎 ㊟浦岡敬一 ㊟湯浅譲二 ㊟中村賀津雄、加賀まりこ、野川由美子、小沢昭一、江守徹、佐藤慶、戸浦六宏、小松方正、草野大悟、渡辺文雄



11 1/8(金)4:00pm 1/16(土)5:00pm 1/20(水)4:00pm

### 白昼の通り魔(99分・35mm・白黒)

心中しても犯されても生き残る女シノ——彼女を通して戦後の闇の暗喩が、ハイキーの白黒映像に反転して写し出される。大島作品の中では最も細かいカットの編集で構成された1本。『怪談』(1965年、小林正樹監督)の戸田重昌が本作から大島組の美術に参加。

'66(創造社)◎大島清◎武田泰淳◎田村孟◎高田昭◎戸田重昌◎浦岡敬一◎林光◎川口小枝、小山明子、佐藤慶、戸浦六宏、渡辺文雄、殿山泰司、岸輝子、小松方正、矢野宣、茅島成美、高原良子、川口秀子、観世栄夫

12 1/8(金)7:00pm 1/19(火)4:00pm 1/27(水)1:00pm

### 忍者芸芸帳(117分・35mm・白黒)

戦国時代を舞台に、剣一筋に生きる若者や農民を率いる謎の忍者の活躍を通して「革命」の精神を描いた「忍者芸芸帳」。学生たちの熱狂的な支持を集めた白土三平による大長篇劇画の原画を撮影、様々な映画技法を駆使して再構成したもので、大島にとって初めてのATGによる配給作品となった。(オリジナルは132分)

'67(創造社)◎大島清◎白土三平◎佐々木守◎高田昭◎白石末子◎林光◎山本圭、本典典子、佐藤慶、福田善之、観世栄夫、霧川茂◎小沢昭一

13 1/9(土)11:00am 1/20(水)7:00pm

### 日本春歌考(103分・35mm・カラー)

大学受験のため上京した若者4人組が、教師の大竹の死をきっかけに、性欲と妄想を解き放つ。添田知道の著作「日本春歌考」に着想を得て製作された作品で、主演に前年レコード大賞新人賞を受賞した荒木一郎や自由劇場の吉田日出子を迎え、各シーンは登場人物に因る簡単なイメージだけを元に撮影現場で即興的に作り上げられた。

'67(創造社)◎大島清◎田村孟、佐々木守、田島敏男◎高田昭◎戸田重昌◎浦岡敬一◎林光◎荒木一郎、小山明子、田島和子、伊丹一三、岩濑孝次、串田和美、佐藤博、宮本信子、益田ひろ子、吉田日出子

14 1/9(土)2:00pm 1/15(金)1:00pm 1/28(水)7:00pm

### 無理心中 日本の夏(99分・35mm・白黒)

豊満な肉体をもてあまし男を求める「ネジ子」、人に殺される願望にとりつかれた「オトコ」が、海岸で銃器を掘り起こすヤクザたちにつかまり謎の廃墟に閉じこめられる。新宿のスナックを徘徊する「フーテン族」の桜井啓子をヒロインに抜擢。当時の先端風俗を作品の中に大胆に取り込んでいる。

'67(創造社)◎大島清◎田村孟、佐々木守◎吉岡康弘◎戸田重昌◎浦岡敬一◎林光◎桜井啓子、佐藤慶、戸浦六宏、殿山泰司、田村正和、小松方正、観世栄夫

15 1/9(土)5:00pm 1/22(金)1:00pm

### 絞死刑(118分・35mm・白黒)

ATGと独立プロの提携による「一千万円映画」の第1作。在日朝鮮人Rの死刑が失敗、そこから次々と滑稽な事態が展開してゆく。佐々木守らの筆になる痛烈なユーモアを渡辺文雄ら大島組の常連俳優たちが見事に具現化。カンヌ国際映画祭に正式出品され、海外での大島ブームにも火を点けた。

'68(創造社=ATG)◎大島清◎田村孟、深尾道典、佐々木守◎吉岡康弘◎戸田重昌◎白石末子◎林光◎伊藤隆道、佐藤慶、小山明子、戸浦六宏、渡辺文雄、石堂淑朗、足立正生、松田政男、上野堯、小松方正、薄井孝雄、寺島アキ子、桜井啓子

16 1/10(日)11:00am 1/14(水)4:00pm 1/29(金)7:00pm

### 帰って来たヨッパライ(80分・35mm・カラー)

フォーク・クルセダーズのヒット曲を題名にして、不条理に巻き込まれる3人の若者を彼ら自身に演じさせた異色作。日本人と韓国人との自己同一性のあやふやさが繰り返し問われ、物語が一度元に戻ってしまう大胆な構造にも驚かされる。クルセダーズが次のシングル曲に予定していたが発売中止となった「イムジン河」も3人によって歌われている。

'68(創造社)◎大島清◎田村孟、佐々木守◎足立正生◎吉岡康弘◎戸田重昌◎浦岡敬一◎林光◎加藤和彦、北山修、端田宜彦、佐藤慶、緑魔子、渡辺文雄、小松方正、殿山泰司、車大善、上野堯

17 1/10(日)5:00pm 1/22(金)7:00pm 1/28(水)0:30pm

### 宵闇せまれば(43分・35mm・白黒)

アパートの一室に集った4人の若者が開いたガス栓を放置して、誰が最後まで残れるか危険な賭けをする。テレビで注目を集めた異才・実相寺昭雄が、大島の脚本による本作で映画デビューを果たした。斎藤憐、清水敏治など自由劇場の主要メンバーが出演している。

'69(プロダクション断屠)◎実相寺昭雄◎大島清◎町田敏行◎倉橋利昭◎冬木透◎斎藤憐、三留由美子、清水敏治、樋浦勉

### 新宿泥棒日記(96分・35mm・パートカラー)

本を万引きした青年「鳥男」と、彼の手を掴んで社長に突き出す少女「ウメ子」。主人公の青年をデザイナーの横尾忠則が演じるほか、状況劇場の唐十郎や紀伊國屋書店社長の田辺茂一など多数の芸術家、文化人が実名で登場。アンダーグラウンド・カルチャーの発信地であった新宿にカメラを持ち込み当時の熱気をまるごと捉えようとした作品。

'69(創造社)◎大島清◎田村孟、佐々木守、足立正生◎吉岡康弘、仙元誠◎戸田重昌◎横尾忠則、横山リエ、田辺茂一、高橋鉄、佐藤慶、戸浦六宏、渡辺文雄、唐十郎、鷹赤見、李礼仙、大久保慶、不破万作、藤原マキ、四谷シモン

18 1/10(日)2:00pm 1/22(金)4:00pm

### 少年(97分・35mm・カラー)

わざと車にぶつかり、治療費をまきあげる「あたり屋」一家。父に命じられて、その危険な行為を繰り返しながら日本中を渡り歩く少年の孤独な姿を、痛切な視線でとらえた作品。新聞の見出しとなった実際の出来事がベースとなっている。少年がラストに見せる無表情はとりわけ印象深い。

'69(創造社=ATG)◎大島清◎田村孟◎吉岡康弘、仙元誠◎戸田重昌◎白石末子◎林光◎渡辺文雄、小山明子、阿部哲夫、木下剛志

19 1/7(水)7:00pm 1/12(火)1:00pm 1/24(日)11:00am

### 東京戦争戦後秘話(94分・35mm・白黒)

カメラを借りていったまま、フィルムという遺書を残して自殺した「あいつ」。ひとつの幻想に取りつかれた映画青年・元木の複雑な内面を見つめながら、新左翼の学生たちによる「東京戦争」の敗北ムードをにじませた作品。脚本の原正孝(正人)、主演の後藤和夫など、十代のアマチュア映像作家たちを大胆に起用。

'70(創造社=ATG)◎大島清◎原正孝、佐々木守◎成島東一郎◎戸田重昌◎浦岡敬一◎武満徹◎後藤和夫、福岡杉夫、福田健一、磯貝浩、橋本和夫、堀越一哉、岩崎恵美子、大島ともよ

20 1/12(火)4:00pm 1/23(土)11:00am

### 儀式(122分・35mm・カラー)

ATG創立10周年記念映画。地方の家父長一族である桜田家が行う冠婚葬祭の儀式を通して、日本の戦後史が語られる。複雑な人間関係や戦後日本の政治風土を巧みに織り込み、大島が「当時持っていた気分」と戦後体験の全部をつぎこんだ」という作品。キネマ旬報ベスト・テン第1位。

'71(創造社=ATG)◎大島清◎田村孟、佐々木守◎成島東一郎◎戸田重昌◎浦岡敬一◎武満徹◎河原崎建三、賀来敦子、中村敦夫、土屋清、乙羽信子、小松方正、戸浦六宏、渡辺文雄、小沢栄太郎、殿山泰司、小山明子、佐藤慶

21 1/12(火)7:00pm 1/20(水)1:00pm 1/29(金)4:00pm

### 夏の妹(95分・35mm・カラー)

ある日、素直子は大村鶴男という沖縄の青年から手紙を受け取り、夏休みを利用して彼に会うため沖縄に向かう。彼女の父は、死んだと聞かされた鶴男の父であるという。日本返還直後の沖縄で長期ロケを敢行。主人公の少女に当時14歳の美少女・栗田ひろみが扮し、美しい自然を背景に沖縄と本土の複雑な関係が描かれる。創造社最後の作品となった。

'72(創造社=ATG)◎大島清◎田村孟、佐々木守◎吉岡康弘◎戸田重昌◎浦岡敬一◎武満徹◎栗田ひろみ、石橋正次、リリィ、小松方正、殿山泰司、戸浦六宏、小山明子、佐藤慶

22 1/13(水)1:00pm 1/21(水)7:00pm

### 愛のコリーダ(104分・35mm・カラー)

戦前に世間を騒がせた阿部定と石田吉蔵の猟奇性愛事件をもとに、二人の究極の愛を描いた日仏合作のハードコア・ポルノ。撮影済みのフィルムを直送しフランスで現像と編集が行われた。世界中でセンセーションを巻き起こしたが、日本国内では原型をどめぬほどの修正とカットを余儀なくされた。本特集では『愛のコリーダ2000』を上映。

'76(大島プロ=オセアニック=アルゴス・フィルム)◎大島清◎伊東英男◎戸田重昌◎浦岡敬一◎三木稔◎松田英子、藤巻もも、中島葵、芹明香、阿部マリ子、三星東美、藤ひろ子、殿山泰司、白石奈緒美、岡田京子、松浦家喜久平、松井康子、九重京司、小山明子

23 1/13(水)4:00pm 1/23(土)5:00pm 1/26(火)1:00pm

### 愛の亡霊(107分・35mm・カラー)

『愛のコリーダ』に続きアナトール・ドーマンの製作によるフランスとの合作。人力車夫の妻と、彼女と恋仲になった若い農夫が二人で共謀して夫を殺害。だが、やがて二人の前に夫の亡霊が現れるようになる。物語の舞台を前作の密室から自然の中に移し、撮影に宮島義勇を迎えた。カンヌ国際映画祭で監督賞を受賞。(仏語字幕付プリント)

'78(大島プロ=アルゴス・フィルム)◎大島清◎中村糸子◎宮島義勇◎戸田重昌◎浦岡敬一◎武満徹◎吉行和子、藤巻もも、田村高廣、長谷川真砂美、小山明子、伊佐山ひろ子、殿山泰司、佐藤慶、川谷拓三

24 1/13(水)7:00pm 1/24(日)2:00pm 1/28(水)4:00pm

### 戦場のメリークリスマス(123分・35mm・カラー)

イギリス人作家ローレンス・ヴァン・デル・ポストの『影の獄にて』を日英合作で映画化。ジャワの日本軍俘虜収容所を舞台に、西洋と東洋の文化・価値観が激しく衝突する。デビッド・ボウイ、坂本龍一、ビートたけしという異色の配役、坂本の主題曲も話題を呼んで大ヒット。

'83(シネベンチャー・プロレコレデッド・ピクチャーカンパニー=大島プロ=テレビ朝日=ブロードバンク・インベストメント)◎大島清◎サー・ローレンス・ヴァン・デル・ポスト◎ポール・マイヤース◎バグ・成島東一郎◎戸田重昌◎大島とも◎坂本龍一◎デビッド・ボウイ、トム・コンティ、ビートたけし、ジャック・トンプソン、ジョニー・大倉、内田裕也、戸浦六宏、室田日出男

25 1/14(木)1:00pm 1/17(日)5:00pm

### 御法度(100分・35mm・カラー)

司馬遼太郎の短篇小説を映画化。新撰組に一人の美少年が入隊したことがきっかけで、組織の統制が音を立てるように崩れていく。前作『マックス・モン・アムール』(1987年)から12年振りの復帰作で、ビートたけし(主演)、坂本龍一(音楽)とのトリオも復活。本作が映画デビューの松田龍平はその年の新人賞を総なめにした。

'99(松竹=角川書店=IMAGICA=BS朝日=衛星劇場)◎大島清◎司馬遼太郎◎栗田豊通◎西岡善信◎大島とも◎坂本龍一◎崔洋一、ビートたけし、伊武雅刀、武田真治、浅野忠信、田口トモロヲ、松田龍平、坂上二郎、神田うの、吉行和子



少年



月	火	水	木	金	土	日
4	1 月見草 1:00pm (70分)	4 青春残酷物語 1:00pm (96分)	7 飼育 1:00pm (105分)	10 悦楽 1:00pm (91分)	13 日本春歌考 11:00am (103分)	16 帰って来たヨッパライ 11:00am (80分)
	2 どんと行こうぜ 4:00pm (89分)	5 太陽の墓場 4:00pm (88分)	8 天草四郎時貞 4:00pm (101分)	11 白昼の通り魔 4:00pm (99分)	14 無理心中 日本 2:00pm (99分)	18 少年 2:00pm (97分)
	3 明日の太陽 愛と希望の街 7:00pm (計68分)	6 日本の夜と霧 7:00pm (107分)	19 東京戦争戦後秘話 7:00pm (94分)	12 忍者武芸帳 7:00pm (117分)	15 絞死刑 5:00pm (118分)	17 宵闇せまれば 新宿泥棒日記 5:00pm (計139分)
1月	19 東京戦争戦後秘話 1:00pm (94分)	22 愛のコリーダ 1:00pm (104分)	25 御法度 1:00pm (100分)	14 無理心中 日本 1:00pm (99分)	1 月見草 11:00am (70分)	2 どんと行こうぜ 11:00am (89分)
	20 儀式 4:00pm (122分)	23 愛の亡霊 4:00pm (107分)	16 帰って来たヨッパライ 4:00pm (80分)	3 明日の太陽 愛と希望の街 4:00pm (計68分)	6 日本の夜と霧 2:00pm (107分)	4 青春残酷物語 2:00pm (96分)
	21 夏の妹 7:00pm (95分)	24 戦場のメリークリスマス 7:00pm (123分)	5 太陽の墓場 7:00pm (88分)	7 飼育 7:00pm (105分)	11 白昼の通り魔 5:00pm (99分)	25 御法度 5:00pm (100分)
18	5 太陽の墓場 1:00pm (88分)	21 夏の妹 1:00pm (95分)	6 日本の夜と霧 1:00pm (107分)	15 絞死刑 1:00pm (118分)	20 儀式 11:00am (122分)	19 東京戦争戦後秘話 11:00am (94分)
	12 忍者武芸帳 4:00pm (117分)	11 白昼の通り魔 4:00pm (99分)	10 悦楽 4:00pm (91分)	18 少年 4:00pm (97分)	3 明日の太陽 愛と希望の街 2:00pm (計68分)	24 戦場のメリークリスマス 2:00pm (123分)
	8 天草四郎時貞 7:00pm (101分)	13 日本春歌考 7:00pm (103分)	22 愛のコリーダ 7:00pm (104分)	17 宵闇せまれば 新宿泥棒日記 7:00pm (計139分)	23 愛の亡霊 5:00pm (107分)	9 小さな冒険旅行 ユンボギの日記 5:00pm (計85分)
25	23 愛の亡霊 1:00pm (107分)	12 忍者武芸帳 1:00pm (117分)	17 宵闇せまれば 新宿泥棒日記 0:30pm (計139分)	8 天草四郎時貞 1:00pm (101分)		
	7 飼育 4:00pm (105分)	9 小さな冒険旅行 ユンボギの日記 4:00pm (計85分)	24 戦場のメリークリスマス 4:00pm (123分)	21 夏の妹 4:00pm (95分)		
	4 青春残酷物語 7:00pm (96分)	10 悦楽 7:00pm (91分)	14 無理心中 日本 7:00pm (99分)	16 帰って来たヨッパライ 7:00pm (80分)		

■作品により開映時間が異なりますのでご注意ください。

小ホール(地下1階)

川喜多かしこ生誕100年記念事業  
川喜多賞受賞監督作品選集

“A Wreath for Madame Kawakita” in Tokyo  
主催：東京国立近代美術館フィルムセンター、  
川喜多記念映画文化財団、国際交流基金

2010年1月14日(土)～1月31日(日) ※月曜日は休映  
定員=小ホール151名(各回入替制)  
発券=地下1階受付

- 料金=一般500円/高校・大学生・シニア300円/小・中学生100円/障害者(付添者は原則1名まで)は無料  
・開映後の入場はできません。  
・観覧券は当日・当該回のみ有効です。  
・発券・開場は開映の30分前から行い、定員に達し次第締切ります。  
・学生、シニア(65歳以上)、障害者の方は、証明できるものをご提示ください。  
・発券は各回1名につき1枚のみです。  
・詳細は当該チラシをご覧ください。

図書室カレンダー

赤字は休業日

1月						
月	火	水	木	金	土	日
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	31

図書室(4階)

開室=火曜日～土曜日(午後0時30分～午後6時30分)/入室は午後6時まで 閉室=休館日および日曜日・祝日

展示室(7階)

【企画展】

戦後フランス映画ポスターの世界

東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵(新外映コレクション)より

Postwar French Cinema in Posters

— From the Shingaei Collection of the National Film Center

ヌーヴェルヴァーグ作品をはじめ、戦後の日本に数々の優れたヨーロッパ映画を届けた映画配給会社、新外映がかつて所蔵していたフランス映画のオリジナル・ポスターを一挙に公開します。

【第1期】2010年1月7日(土)～2月14日(日)

【第2期】2月17日(土)～3月28日(日)

\*月曜日は休業

2階受付では、「NFCニュースレター」(隔月刊)を販売しています。これは、フィルムセンターのさまざまな催し物や事業の情報、上映番組の解説、予告等はもちろんのこと、世界のフィルム・アーカイブやシネマテークの紹介、映画史研究の先端的成果の発表などを掲載する機関誌です。どうぞご利用下さい。



東京国立近代美術館フィルムセンターは、国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)の正会員です。FIAFは文化遺産として、また、歴史資料としての映画フィルムを、破壊・散逸から救済し保存しようとする世界の諸機関を結びつけている国際団体です。

【常設展】企画展に併設

展覧会 映画遺産

一東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより  
The Japanese Film Heritage

— From the Non-film Collection of the National Film Center —

開室時間=午前11時～午後6時30分

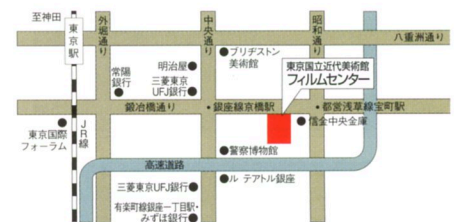
(入場は午後6時まで)

料金(企画展・常設展共通)=一般200円(100円)/大学生・シニア70円(40円)/高校生以下及び18歳未満・障害者(付添者は原則1名まで)、MOMATパスポートをお持ちの方、キャンパスメンバーズは無料

\* ( )内は20名以上の団体料金です。

\* 学生、シニア(65歳以上)、障害者の方は、証明できるものをご提示下さい。

\* フィルムセンターが主催する上映会をご覧になった方は当日に限り、半券のご提示により団体料金が適用されます。



フィルムセンター 〒104-0031 東京都中央区京橋3-7-6

▼交通:

東京メトロ銀座線京橋駅下車、出口1から昭和通り方向へ徒歩1分  
都営地下鉄浅草線宝町駅下車、出口A4から中央通り方向へ徒歩1分  
東京メトロ有楽町線銀座一丁目駅下車、出口7より徒歩5分  
JR東京駅下車、八重洲南口より徒歩10分

お問い合わせ: ハローダイヤル03-5777-8600

NFCホームページ:

<http://www.momat.go.jp/>

NFC携帯電話ホームページ:

<http://www.momat.go.jp/nfc/k/>

